

切り取ってご利用ください

平成23年度展覧会のご案内

展覧会名	開催期間
1 生誕130年記念 小杉放菴 所蔵名品撰	4月16日(土)～5月29日(日)
2 日光創新博覧会 美術篇1 四季の彩りに一小杉放菴	6月4日(土) ～7月18日(月・祝)
3 夏休み特別企画 美術館は動物園—美術に表現された動物たち	7月23日(土)～9月4日(日)
4 合併5周年記念 一体感醸成企画 日光在住の作家たちⅡ/Ⅲ 小坂憲正/香川大介	9月10日(土)～10月16日(日)
5 絵本の系譜Ⅲ 宮城県美術館所蔵 絵本原画展(仮称)	10月22日(土)～12月4日(日)
6 来日130周年 宇都宮美術館コレクションによ るジョルジュ・ピゴーと日光	12月10日(土) ～平成24年1月29日(日)
7 出会いの美術Ⅲ	平成24年2月11日(土・祝) ～4月1日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日：毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日を休館)
○年末休館12月26日～31日、年始休館1月4日～6日
○展覧会番号1・2・3・5は会期中無休
入館料：一般…700(300)円、大学生…500(200)円、高校生以下…無料
※()内は市民割引券を利用した際の料金です。



小杉未醒「騎馬」
紙・コンテ/着色 37.5cm×26.5cm
小杉放菴記念日光美術館蔵

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO
小杉放菴記念日光美術館

日光市の文化財 45

文化財の保護 (ニホンカモシカ)



【種別】 特別天然記念物
【所在】 県内一円
昭和30年2月15日国指定

今回は、国の特別天然記念物に指定されているニホンカモシカを例に、文化財の保護についてご紹介いたします。

ニホンカモシカは、本州・四国・九州の山岳地に生息するウシ科の動物で、日光市では日光・足尾・栗山地域が保護地域に設定されており、特に足尾地域で多く目撃されています。市内では6名の調査員が毎年決まった時期に、生息数の変化を把握するための観察や目撃情報の聞き取り調査をしています。また、ニホンカモシカの死体発見の通報があった場合には、市教育委員会と県立博物館が協力して回収し、個体の大きさや死因などを記録することで、今後の保護のための参考資料としています。これらの調査活動は、密猟の監視の役割も兼ねており、ニホンカモシカの保護に大きな役割を果たしています。

文化財は、建造物であれば定期的な修理を行い、史跡であればその周囲の開発を制限するといった方法で保存を図りますが、天然記念物である動物の保護には今回ご紹介したような方法を取ることがあります。このように、文化財には多くの種類があると同時に、保護・保存に關してもさまざまな方法がありますが、それらは多くの人々の協力によって成り立っているのです。

平成19年度から、「日光市の文化財」として、市内の文化財をご紹介してきましたが、広報紙への掲載は、今回が最後になります。

今後は、市ホームページ上で公開する予定です。完成までしばらくお待ちください。

歴史民俗資料館通信

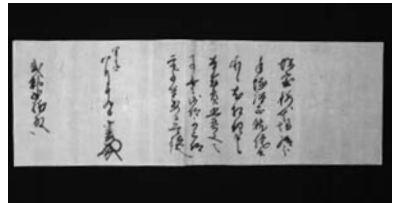
日光市中央町29-1(市図書館隣) ☎22)6217
開館時間 午前9時～午後6時(入館無料)
休館日 毎週月曜日、祝日



◆常設展示資料紹介⑧ 宗安書状(複製)

この書状は、日光山桜本坊が式部少輔に差し出したもので、その内容は、塩野室郷の桜本坊所領の年貢について、手塚弾正による減免願いは承諾したが、本年貢五貫文はおろそかにせず納めるようお願いしていることを式部少輔に指示したものです。

書状は永禄7(1564)年に記されたものと考えられ、今市地域に残る数少ない中世文書です。また、塩野室郷の領主である桜本坊、その代官と推定される式部少輔、さらにその下の在地有力者である手塚弾正の三層になっていた支配関係を関係を知ることができ、貴重な資料です。



宗安書状(複製)

◆常設展示資料紹介⑨ ひこ六地蔵(複製)

像高28cmの地藏菩薩坐像で、背中の銘文から「ひこ六地蔵」と呼ばれています。

また、「弥勒元丁卯」と刻まれた銘文の「弥勒」とは、私年号(朝廷の定められたものではなく私的に定められた年号)を示しており、これは、永正4(1507)年のものと推定されています。今市地域では、希少な中世の金石文の一つとして貴重なものです。

なお、ひこ六地蔵と宗安書状の実は、有形文化財に指定されています。



ひこ六地蔵(複製)

※読み仮名は、研究者によって異なる場合があります。

市民文芸

川柳 選者 山本都留米

寒風に負けじと歩くランドセル 植田義雄
晴ればれと桜が似合う新入生 大堀 満
宴会費下戸と酒豪でランク分け 白土武夫
見栄を捨て百円シヨップに切りかえる 高賀茂敏男
お花見と聞いて足腰ピンと伸び 石川みかん
おすそ分け季節はずれのアユ賞味 五位野キヨ子
細君と言えぬ女房の食いつぶり 塚原トモエ

俳句 選者 伊藤 清

日溜りに露の墓見ゆ野の小径 福田美代子
恙なき古稀の背祓ふ年の豆 渡辺ミチ子
雪止みて青空見上げほつとする 櫻澤絵一
観世音千手に託す初詣 徳本英子
クロッカス子孫増やして咲きにけり 池田三夫
密やかに辛夷膨らむ窓の枝 北崎 君
人參の鮮やかなカレー食う 白土武夫

短歌 選者 阿久津伸一

雪あおく凍てつく庭に凜と立つ木々の影おき澄める寒月 根立郷美
春を待つ地上の夢を反射して日光連山白く輝く 山白く輝く
酸素マスクしベッドに横たう師の素顔われにほほえむあごひげ哀し 狐塚昭子
密やかにこぼし花芽の膨らみて春の兆しを肌記憶ゆる 北崎 君
川辺りの氷柱の解けて猫柳朝光に芽のほころび出づる 植田義雄
男体山は街を見下ろし幸あれと願っているが見える新年 伊藤悦子
節分の福豆年の数えらぶ戸外寒々と雪の降りづく 湯沢登久栄

作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。

応募先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21)5135・FAX(21)5109